

【基調講演】

「日常生活を民俗学はどのように捉えてきたのか

—「海女という生きかた」をめぐって—

◆小島孝夫(成城大学文芸学部・教授)

【事例報告】

—文化財レスキューから民俗研究へ—

「気仙沼市小々汐・尾形家の物質文化からみえる地域」

◆葉山茂(国立歴史民俗博物館・特任助教)

「牡鹿半島の海の技術とそれぞれの人生」

◆加藤幸治(東北学院大学文学部・准教授)

「志津川湾の暮らし

—民具から見えてくるもの、民俗から見えてくるもの—

◆小谷竜介(東北歴史博物館・学芸員)

シンポジウム

海と向き合う人々の
民俗学

入場無料

海と共に生きてきた人々の姿に
思いをはせてみませんか。

概要

世界三大漁場のひとつに数えられることもある「三陸沖」は、寒流と暖流がぶつかり合うことから
豊富な海洋資源をたたくホトスポットです。
その南部にあたる宮城県の牡鹿半島から気仙沼にかけての沿岸部の集落では、
漁業や養殖業、捕鯨業、水産加工業などが発達してきました。
今回のシンポジウムでは、海と向き合う人々の、くらしや人生を民俗学から
どのようにとらえられるかを切り口に、
これからの三陸の海の文化の研究を展望してみたいと思います。

定員:120名 ※当日整理券を配付

※展示終了後、展望棟ギャラリーにて、東北学院大学の学生による連携展示「牡鹿半島・海の暮らしの風景」の解説案内

開催日:平成26年10月25日(土) 13:30~16:00(13:15開場予定)

開催場所:宮城県慶長使節船ミュージアム
(サン・ファン館)セミナールーム

●主催:公益財団法人慶長遣欧使節船協会 ●共催:東北学院大学博物館 ●後援:宮城県、石巻市、石巻かほく、石巻日日新聞社、ラジオ石巻FM76.4

シンポジウム

海と向き合う人々の民俗学

入場無料

〈プログラム〉

13:30 開会あいさつ

●宮城県慶長使節船ミュージアム館長 濱田直嗣

13:40 基調報告

「日常生活を民俗学はどのように捉えてきたのかー「海女という生きかた」をめぐるー」

●小島孝夫（成城大学文芸学部・教授）

素潜り潜水漁に従事する海女たちは、「海女しかなかった」と言うが、むしろ、「海女があった」からこそ、今日にいたる生活が維持できたのである。潜水漁の諸相を題材として、海に生きる人びとの生き方を捉え直してみたい。

14:15 事例報告 —文化財レスキューから民俗研究へ—

「気仙沼市小々汐・尾形家の物質文化からみえる地域」

●葉山茂（国立歴史民俗博物館・特任助教）

人びとは三陸の海岸でどう生きてきたのだろうか。国立歴史民俗博物館が気仙沼市小々汐の個人住宅で行なった文化財レスキューの結果から、個人住宅の物質文化を手がかりに地域社会のこれまでの営みを考えたい。

「牡鹿半島の海の技術とそれぞれの人生」

●加藤幸治（東北学院大学文学部・准教授）

牡鹿半島には、磯根漁業、陥穿漁、底曳漁、近海での刺し網、大謀網と称する大規模定置網、養殖業、そして捕鯨と、様々な海の技術がある。聞き取りによる人々の人生のエピソードから、半島の漁撈文化を展望してみたい。

「志津川湾の暮らし —民具から見えてくるもの、民俗から見えてくるもの—」

●小谷竜介（東北歴史博物館・学芸員）

私は、文化財レスキュー事業に関わり、多くの文化財の救済に携わった。しかしながら、震災前に最も長く関わった志津川湾地域での活動は十分にできなかった。そのことと、震災後の実践を通して、改めて志津川湾地域を考えてみたい。

休憩

15:15 討論会

●コーディネーター：加藤幸治

16:00 閉会あいさつ

※展示終了後、展望棟ギャラリーにて、東北学院大学の学生による連携展示「牡鹿半島・海の暮らしの風景」の解説案内

〈参加方法〉

事前の申し込みは不要です。当日は9時30分より整理券を配付します。

※館内のご見学を希望の方は事前に入場券をお買い求めください。

〈関連企画〉

東北学院大学民俗学ゼミナール聞き書き調査

牡鹿半島の暮らしを 未来に伝えよう

文化財レスキューされた民俗資料の使い方等が不明です。ぜひ、昔の暮らしの思い出話を聞かせて下さい。

日時：①10月25日(土)午前 ②10月26日(日)終日

〈発表者のプロフィール〉

小島孝夫（こじまたかお）

1955年、埼玉県生まれ。成城大学文芸学部・同大学院文学研究科教授。主な業績として『海と里（日本の民俗1）』（共著、吉川弘文館）、『クジラと日本人の物語ー沿岸捕鯨再考ー』（編著、東京書店）など。

葉山茂（はやましげる）

1974年、大阪府生まれ。国立歴史民俗博物館・特任助教。主な業績として『現代日本漁業誌ー海と共に生きる人々の七十年』（単著、昭和堂）、『東日本大震災と気仙沼の生活文化ー図録と活動報告』（編著、国立歴史民俗博物館）など

加藤幸治（かとうこうじ）

1973年、静岡県生まれ。東北学院大学文学部歴史学准教授・同大学博物館学芸員。主な業績として『紀伊半島の民俗誌』（単著、社会評論社）、『被災地の博物館に聞く』（共著、吉川弘文館）など。

小谷竜介（こたにりゅうすけ）

1970年、山口県生まれ。東北歴史博物館学芸員。主な業績として、『鮭〜秋味を待つ人々〜』（共編著、東北歴史博物館）、『無形民俗文化財が被災するということ』（共著、新泉社）など。

〈会場のご案内〉



東北学院大学連携展示

「牡鹿半島・ 海と暮らしの風景」

一世紀以上の歴史がある牡鹿半島・鮎川の捕鯨文化を、古い写真と民具で振り返ります。

日時：10月11日(土)～10月26日(日)

《場所》

宮城県慶長使節船ミュージアム(サン・ファン館)展望棟ギャラリー